

- 問1 律令制度のもとで実施された税制について、平城京跡から発見された荷札用の木簡の調査からわかる当時の状況として、最も適切な説明はどれですか。(2016年 静岡公立入試 類似)
1. 収穫した稲の一部を、その土地の役所に納めることが義務付けられていた。
  2. 都での労役の代わりに、麻布などの布を納めることが認められていた。
  3. 肥後国の木綿など、地方の特産品を荷札とともに都へ届ける負担があった。
  4. 地方の豪族が、自分の領地の農民に対して独自に課した労働奉仕のことである。
- 問2 律令国家が「班田収授法」を定め、戸籍に基づいて6歳以上の男女に口分田を与えた目的と、その背景にある仕組みの説明として最も適切なものはどれですか。(2020年 長野県公立入試 類似)
1. 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。
  2. 貴族や寺社に広い私有地を与え、地方の開墾を効率的に進めさせるため。
  3. 土地の売買を自由化することで流通を活発にし、国家の財政を潤すため。
  4. 能力の高い農民に多くの土地を優先的に配分し、農業の生産性を高めるため。
- 問3 律令制の崩壊過程において、農民が税負担から逃れるためにとった行動のうち、戸籍そのものを偽るのではなく、本籍地を離れて他国へ移動し、他人の家や寺社などに身を寄せる行為を何といいますか。(2018年 徳島公立入試 類似)
1. 浮浪
  2. 偽籍
  3. 班田
  4. 防人
- 問4 律令制のもとで、中央政府から地方の国々に派遣され、徴税や裁判などの行政を担った官職を何といいますか。地元の有力豪族が任命された郡司を指揮・監督した立場を指す名称として正しいものを、次のなかから選びなさい。(2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 国司
  2. 守護
  3. 地頭
  4. 県令
- 問5 奈良時代の文化が、のちの平安時代に栄えた「国風文化」と比較して「国際色豊かな文化」と評される最大の要因は何か。(2016年 長野県公立入試 類似)
1. 遣唐使が唐の都である長安の国際的な文化や、西アジア、インドなどから伝わった文物を日本へ持ち帰ったから。
  2. 平氏による日宋貿易が盛んになり、中国から宋銭や陶磁器が大量に流入して庶民の生活を豊かにしたから。
  3. 独自の文字である「かな文字」が考案されたことで、日本の風土に合った文学作品が数多く生まれたから。
  4. 幕府がキリスト教を禁止し、出島を通じたオランダや中国との貿易のみを許可する政策をとったから。
- 問6 聖武天皇が東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することを決意した背景には、当時の社会情勢が深く関わっています。その背景として適切な説明を選んでください。(2026年 千葉公立入試 類似)
1. 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため
  2. 武士の勢力が増大し、その力を抑えるために仏教を国の最高位の教えとして再編しようとしたため
  3. 大陸との国交を断絶したことで日本独自の文化が衰退し、改めて唐の文化を取り入れる象徴とするため
  4. 日本各地でキリスト教が広まり始め、それに対抗するために仏教寺院のネットワークを強化したかったため
- 問7 奈良時代、聖武天皇が都に東大寺を建立し、さらに全国へ国分寺・国分尼寺を建てるよう命じた理由として、当時の背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。(2022年 高知公立入試 類似)
1. 遣唐使を派遣するための莫大な費用を、各地の寺院から集める仕組みを作るため
  2. 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため
  3. 武士の勢力に対抗するために僧兵を組織し、天皇中心の軍勢力を強化するため
  4. 律令制度の基本となる戸籍の作成を、僧侶に管理させる拠点とするため
- 問8 かつての税制を知る手がかりとして、伊豆国から都まで運ばれた荷物に付けられていた木製の荷札が見つかっています。この荷札には特産品である「鯉節」を納めた記録が残っていますが、このように地方の産物を都へ届ける税の仕組みについて正しく述べたものはどれですか。(2016年 山形県公立入試 類似)
1. 主に成人男性に課せられ、各地の特産物を都まで運んで納める義務。
  2. 収穫した稲の約3%を、それぞれの国にある倉庫へ納める義務。
  3. 都での労役の代わりに、決められた長さの布を都へ納める義務。
  4. 年間60日を限度として、国司の命令で地方の土木工事などに従事する義務
- 問9 碁盤の目状に整備された平城京の区画内に位置し、鑑真によって戒律が伝えられた唐招提寺が含まれる世界遺産「古都奈良の文化財」がある場所について、日本全国を対象とした地理的説明として最も適切なものを次から選びなさい。(2022年 東京都公立入試 類似)
1. 近畿地方に位置し、古くから政治や文化の中心地として発展した奈良県周辺
  2. 北海道地方に位置し、アイヌ文化や北方との交易の歴史を持つ地域
  3. 東北地方の南部に位置し、中世に奥州藤原氏が黄金文化を築いた福島県周辺
  4. 九州地方の北部に位置し、古くから大陸との外交の窓口として機能した地域
- 問10 奈良の正倉院に収められている「螺鈿紫檀五絃琵琶（らでんしたんのごげんびわ）」には、熱帯アジアを原産とする紫檀という木材が使われ、砂漠を歩くラクダの装飾が施されています。このような特徴を持つ宝物が日本に存在する歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。(2026年 北海道公立入試 類似)
1. 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。
  2. 聖徳太子が派遣した遣隋使が、インドや西アジアの諸国と直接的な外交関係を樹立し、それらの国々から直接輸入したものである。
  3. 当時の日本は西アジア諸国と大規模な直接貿易を行っており、主に海路を通じてこれらの豪華な楽器が大量に輸入された。
  4. 唐が周辺諸国との交流を遮断していたため、日本は朝鮮半島の新羅を経由してのみ、間接的に西アジアの文化を取り入れていた。
- 問11 奈良時代、相次ぐ疫病や政治的な混乱による社会不安を鎮めるため、聖武天皇が仏教の力で国家の安定を図ろうとした政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。(2021年 広島公立入試 類似)
1. 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。
  2. 大陸から伝わった鉄器や青銅器の製造技術を独占し、全国の主要な拠点に工房を設置した。
  3. 地方の治安を維持するために、全国の国ごとに守護を、公領や荘園には地頭を設置した。
  4. 下剋上の風潮を抑えるために、各地域の農民が中心となった寺院による自治を認めた。
- 問12 奈良時代にまとめられた日本最古の和歌集について、天皇や貴族の歌だけでなく、九州の北海岸などの警備にあたった「防人（さきもり）」や農民など、幅広い階層の人々の歌が収められているという特徴を持つものはどれですか。(2020年 香川公立入試 類似)
1. 万葉集
  2. 古今和歌集
  3. 新古今和歌集
  4. 懐風藻

## 答え合わせ・解説

問1	答え 3 肥後国の木綿など、地方の特産品を荷札とともに都へ届ける負担があった。	平城京から出土した木簡には、どこの国（現在の都道府県に近い単位）から、どのような品物が、誰によって届けられたかが墨で書かれています。例えば、肥後国益城郡から「調」として木綿が届けられた記録があり、これは全国の特産物が都へ集められていた実態を示しています。稲を納めるのは「租」、都での労役の代わりは「庸」であり、これら三つが律令制における主要な税の仕組みでした。
問2	答え 1 農民を土地に結びつけて確実に把握し、租などの税を安定して徴収するため。	律令国家にとって、土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則は、国家財政を維持するための根幹でした。戸籍によって一人ひとりの人民を把握し、口分田を与える代わりに「租（収穫した稲の約3%）」などの税を課すことで、国家の収入を安定させる狙いがありました。そのため、私有地を増やすことや土地の自由な売買は、当初の律令制度の目的とは相反するものでした。
問3	答え 1 浮浪	農民が重い負担に対抗した手段には、戸籍の性別や年齢を偽る「偽籍」のほかに、登録された土地から勝手に離れる「浮浪」や「逃亡」がありました。これらは、律令国家が「公地公民」の原則に基づき、戸籍によって人民を把握し税を徴収する仕組みを維持することを困難にさせ、やがて班田収授法が機能しなくなる大きな要因となりました。
問4	答え 1 国司	律令制度において、中央政府の権威を地方に及ぼすために都から派遣されたのが国司です。彼らは一定の任期を持ち、地元の実力者である豪族から選ばれた「郡司」を指導・監督しながら、戸籍の作成や税の取り立て、裁判などを行いました。鎌倉時代の守護や地頭、明治時代の県令など、他の時代の地方官職と区別することが重要です。
問5	答え 1 遣唐使が唐の都である長安の国際的な文化や、西アジア、インドなどから伝わった文物を日本へ持ち帰ったから。	当時の唐の都・長安は、世界各地から人々が集まる国際都市であった。遣唐使はそこから最新の仏教経典、芸術作品、工芸品を持ち帰ったため、日本の貴族文化の中に唐だけでなく遠く西アジアやインドの要素が混ざり合うこととなった。これに対し、遣唐使の廃止後に発達した国風文化は、それらを日本の風土に合わせて消化した日本独自の文化であるという違いがある。
問6	答え 1 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため	聖武天皇の治世では、長屋王の変などの激しい権力争いに加え、天然痘の大流行による人口減少や飢饉が発生し、社会は非常に不安定でした。こうした深刻な状況を打破し、人々の心をまとめ、国家を再建する拠り所として、鎮護国家の思想に基づく大仏造立や天平文化の振興が行われました。
問7	答え 2 伝染病の流行や政治的な混乱などの社会不安を、仏教の教えによって鎮め、国を安定させるため	聖武天皇が治めていた時期、社会では天然痘などの疫病の流行、飢饉、さらには政治的な反乱などが相次ぎ、民衆や朝廷は大きな不安の中にありました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国を守ろうとする「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想を掲げ、その象徴として東大寺の建立や大仏造立を推進しました。
問8	答え 1 主に成人男性に課せられ、各地の特産物を都まで運んで納める義務。	律令国家の財政を支えた「調」は、地方の特産物を都に集める役割を担っていました。伊豆国の鯉節のように、その土地ならではの加工品が選ばれることが多く、これらは都まで運搬する負担も含めて成人男性の義務とされていました。
問9	答え 1 近畿地方に位置し、古くから政治や文化の中心地として発展した奈良県周辺	唐招提寺は、現在の奈良県に位置しています。この地域は古代日本の政治の中心である平城京が置かれた場所であり、中国の唐の都にならった都市整備が行われました。九州北部や東北、北海道といった他の地域にもそれぞれ重要な文化遺産がありますが、律宗の拠点である唐招提寺や東大寺、興福寺などが集中しているのは近畿地方の奈良盆地です。
問10	答え 1 西アジアやインドの文化が、陸上の交易路であるシルクロードを経て中国へ伝わり、それが遣唐使などの往来によって日本へもたらされた。	奈良時代の日本は遣唐使を派遣し、当時世界の中心の一つであった唐（中国）の文化を積極的に取り入れました。唐はシルクロードを通じて西アジアやインドと盛んに交流していたため、それらの地域の文化や物産が唐に集まっていました。日本は唐を経由することで、間接的に遠く離れた西アジアやインドの国際色豊かな文化（天平文化）を享受することができたのです。遣隋使による直接輸入や、当時の日本が西アジアと直接海路貿易を行っていたという事実は確認されていません。
問11	答え 1 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。	聖武天皇は、仏教の教えによって国を護る「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想に基づき、社会の混乱を収めようと考えました。その一環として、741年に「国分寺建立の詔（みことのり）」を出し、全国の令制国ごとに国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。また、都の平城京にはこれらの総本山となる東大寺を建立し、巨大な大仏を造立しました。
問12	答え 1 万葉集	奈良時代の文化を代表する歌集で、全20巻に約4500首の歌が収められています。貴族だけでなく、防人の歌や東国の人々の生活を詠んだ「東歌（あずまうた）」などが含まれており、当時の人々の感情や暮らしぶりを直接伝える貴重な歴史資料としての側面も持っています。